

# MIT Technology Review [日本版] 特別編集 『ポスト都市時代の社会デザイン 社会実装都市 ひろしま』を発売

広島を実証フィールドと再定義した、  
地域における共創と社会実装型イノベーションの実践ガイド

株式会社角川アスキー総合研究所（本社：東京都文京区、代表取締役社長：垣貫真和）は、『MIT Technology Review [日本版] 特別編集 ポスト都市時代の社会デザイン 社会実装都市 ひろしま』を2026年5月29日（金）に刊行しました。

最新総レポ 未来を試す地方都市の社会実装力／次代を変える挑戦者11人



少子高齢化や労働人口の減少といった社会課題が深刻化する日本において、イノベーションによる課題解決は喫緊のテーマとなっています。AIやロボティクスなど、課題解決を後押しするテクノロジーが進化する一方で、それらを実社会で試し、運用モデルを構築するための実証フィールドの不足が課題となっています。

本誌は、都市機能、製造業の集積、海や山など、多様な地形と産業が半径5キロメートル圏内に凝縮された、日本の縮図（コンパクトシティ）ともいえる、広島市の中心部を舞台に選定。イノベーションの社会実装に適したテストベッド（実験都市）として再定義し、地域全体で挑戦を後押しするエコシステムや、独自の現場を持つ変革者たち取材しました。

また、地域資源と首都圏企業をつなぐハブであり、プラットフォームとしての役割を担う広島県および叡啓大学の協力のもと、制作・発行しました。首都圏をはじめとする全国の新規事業・R&D担当者、経営・管理職層に向けて、地方における共創と社会実装の可能性を提示します。

本誌は、全国主要都市の大型書店や、Amazonなどのネット書店でお買い求めいただけます。

## ■本誌の主な内容

### Why LOCAL Now? ポスト都市時代のプロトタイピング

株式会社日本共創プラットフォーム代表取締役会長であり、地域経済や産業構造の変革に深い知見を持つ富山和彦氏への単独インタビュー。AIの普及によりホワイトカラーの業務代替が進む中、余剰となる高度人材を地方という新たなフロンティアへ還流させるための新たな成長戦略と、転換期におけるローカルの可能性を掘り下げます。



### 【巻頭対談】社会実装都市・ひろしまの勝算

毛籠勝弘氏（マツダ株式会社 代表取締役社長 兼 CEO）と、早田吉伸氏（叡啓大学 教授）による特別対談。グローバル企業の視点とアカデミア・地域エコシステムの視点から、広島が持つ地政学的・文化的な優位性や、生産体制の革新事例、イノベーションを社会実装するためのマインドセットをひもときます。



### ひろしま発・日本を動かす変革者11人

広島を舞台に先進的な取り組みに挑戦するキーパーソンたちが持つ課題感と、その解決策としての挑戦を紹介します。部谷俊雄氏（株式会社ひろぎんホールディングス 代表取締役社長）、河野仁至氏（常石グループ株式会社 代表取締役会長兼グループCEO）、久保雅義氏（株式会社サンフレッチェ広島 代表取締役社長）をはじめ、地域のビジネス、カルチャーを牽引する11人の変革者たちの新しい取り組みと思いを紹介します。

#### 紹介する11人の方々（順不同）

部谷 俊雄氏（株式会社ひろぎんホールディングス 代表取締役社長）

河野 仁至氏（常石グループ株式会社 代表取締役会長兼グループCEO）

久保 雅義氏（株式会社サンフレッチェ広島 代表取締役社長）

木村 裕人氏（株式会社エイトノット 代表取締役CEO）

波多間 俊之氏（株式会社ビーライズ 代表取締役CEO）

谷口 千春氏（株式会社DoTS 代表取締役社長）

久保 宏輔氏（砂谷株式会社 取締役副社長）

住岡 健太氏（特定非営利活動法人 PEACE CULTURE VILLAGE 専務理事）

民秋 清史氏（株式会社モルテン 代表取締役社長 最高経営責任者）

丹下 工氏（株式会社MSERRNT 取締役）／丹下 大（株式会社MSERRNT 代表取締役）

## ローカル×イノベーション 社会課題解決のリアル

先進技術の導入が難しかった農業、介護、観光、製造業などの実体経済領域における先駆的な16の事例をレポート。牡蠣養殖のデジタル化、日本酒の再定義、自律走行ロボットによる過疎地域の物流支援など、社会実装の現場で生まれる課題と展望を取り上げます。さらに、一次産業から先端技術、教育まで、広島発の多様な挑戦を紹介します。



## 世界が注目する 広島発の先端技術（ディープテック）

『MIT Technology Review』ならではの科学技術の視点から、広島発のディープテック企業を紹介。ゲノム解析・編集技術で「第2の種苗会社」を目指すプラチナバイオ株式会社や、AI時代の電力課題に挑む次世代メモリ技術を開発する株式会社マテリアルゲートを取り上げます。各社の技術的優位性と、産業にもたらすインパクトに迫ります。



## 【特別インタビュー】広島県知事・横田美香氏「イノベーション立県への挑戦」

行政のトップである広島県知事の横田美香氏が登場。独自のアクセラレーションプログラムの展開や、規制緩和を伴う実証実験の誘致など、県を挙げて推進する「イノベーション立県」としての先進的な社会実装の取り組みと、未来へのビジョンを語ります。



## 社会実装のハブ&プラットフォーム：叡啓大学の「実践」

本誌の制作に協力する叡啓大学（Eikei University of Hiroshima）について、地域資源と首都圏企業、さらには多様なキープレイヤーをつなぐ「新規事業のプラットフォーム」としての役割を紹介합니다。産学官連携を主導する「ソーシャルデザインセンター（産学官連携・研究推進センター）」の具体的な取り組みや、社会課題解決型ビジネスの創出を目指す教育内容など、キャンパスの様子も交えながら、叡啓大学の実践的な取り組みに迫ります。



## ▼MIT Technology Review [日本版] 公式サイト内に特設サイトを公開

本誌の刊行とあわせて、MIT Technology Review [日本版]内に特設サイトを公開しました。本誌特集記事に関連した動画コンテンツなども掲載しており、ビジネス・行政・アカデミアの各視点から、広島発のイノベーションが生まれる背景を、より深く理解できる内容となっています。

特設サイト：<http://www.technologyreview.jp/sp/eikei/>

## ▼出版記念イベントを開催

本誌の出版を契機として、出版記念イベントを開催します。「社会実装都市ひろしま」をテーマに、地域における新たな価値創造や共創の可能性について発信します。

日時：2026年6月26日（金）13:30～15:00（予定）

※会場や登壇者などの詳細については、叡啓大学より後日発表します。

## ■概要

『MITテクノロジーレビュー [日本版] 特別編集

ポスト都市時代の社会デザイン 社会実装都市 ひろしま』アスキームック

定価：1,650円（本体1,500円＋税）

発売日：2026年5月29日（金）

ISBN：9784049113075

雑誌コード：63693-70

判型：A4判、100ページ

発売：株式会社KADOKAWA

発行：株式会社角川アスキー総合研究所

公式サイトURL：<https://store.kadokawa.co.jp/shop/g/g322602000475/>

## ■MITテクノロジーレビューについて

『MIT Technology Review (MITテクノロジーレビュー)』は、1899年に米国マサチューセッツ工科大学によって創設された、世界で最も歴史と権威があるテクノロジー誌です。米国版の読者層はその8割超がテクノロジー部門の責任者であり、6割が経営層です。

日本版は、米Technology Review Inc.とのライセンス契約のもと、株式会社角川アスキー総合研究所が2016年から会員制Webメディアとして運営しています。日本版の会員も、従業員数1000人超の大企業の経営・管理職など意思決定層が多く、新規事業やサービス開発のヒント、未来予測の情報源として活用されています。

[日本版] 公式サイト：<https://www.technologyreview.jp/>

## 企業・法人のお客様からのお問い合わせ

株式会社角川アスキー総合研究所

MITテクノロジーレビュー メディア担当：[mediarelations@technologyreview.jp](mailto:mediarelations@technologyreview.jp)

叡啓大学に関するお問い合わせ

叡啓大学 価値創造ブランド推進課：[Social-design-center@eikei.ac.jp](mailto:Social-design-center@eikei.ac.jp)

## ■株式会社角川アスキー総合研究所について

角川アスキー総合研究所は、メディア運営やコンテンツ制作で培った知見を活かし、調査、コンサルティング、マーケティング、ビジネスソリューション、出版、教育支援など幅広く事業を展開しています。コンテンツ力、メディア力、リサーチ力を総合的に活用し、お客様の課題解決に取り組みます。

公式サイト：<https://www.lab-kadokawa.com/>

【本件に関する報道関係者からのお問い合わせ】

株式会社角川アスキー総合研究所 広報担当 堀

[press-cp@lab-kadokawa.com](mailto:press-cp@lab-kadokawa.com)